

はじめに

～「安心と活力があふれるまち・横浜」の実現に向けて～



2010年秋、羽田空港が世界に向けて扉を開きました。そして、21世紀になってから、我が国初の開催となるAPECを通じて、横浜の姿が世界に発信されました。

私たちは、世界へつながるこのチャンスをいかし、将来を見据え、活力あふれる横浜経済を実現するとともに、子育て支援をはじめとする市民生活の課題解決に果敢に取り組んでいくことが求められています。

「横浜市中期4か年計画 2010～2013」では、この車の両輪ともいえる「現在の安心」と「将来の活力」を生み出すため、現下の様々な課題に取り組む「基本政策」のみならず、将来の布石として「横浜版成長戦略」を打ち出し、持続可能な都市を築いていきます。

計画を推進していく上で、最も大切なことは、私の市政運営の原点として計画の副題にも位置づけた「共感と信頼」です。市民の皆さまの思いに共感し、共感から信頼が生まれることで、課題解決への歩みが始まるからです。「共感と信頼」のもと、計画の実現に向け、皆さまとともに、市役所一丸となって取り組んでまいります。

計画の策定にあたっては、様々な場面において、市民の皆さまをはじめ、団体・企業の方々など、多くの皆さまから御意見・御提案をいただきました。皆さまの横浜を愛する熱い思いに心から感謝申し上げます。

今後とも、「安心と活力があふれるまち・横浜」の実現に向けて、御支援・御協力をよろしく申し上げます。

平成22年12月

横浜市長 林 文子



—未来の横浜を表すロゴマークとスローガン—

—ステートメント(横浜の未来像)—

笑う。食べる。学ぶ。
働く。遊ぶ。深呼吸する。
生きていくうえで関わるすべてのことが、
手の届く範囲の中にある。
港と丘、文化と自然、歴史あるものと新しきもの。
時には葛藤しながらも、
様々なものをやさしく包み込み、
人が、人と、人らしく、すごせる街。
自然に、自分らしくいられる街。
そんな街で、あなたとわたしが、
出会い、認めあい、高めあう。

それは、ここに暮らす人たちが
自ら思い描いた、未来のヨコハマ。
長い歩みの中で、異なるものを受け入れ、
新たなものを生み出しつづけたヨコハマの、
もう始まっている未来。

いまと未来をむすぶのは、
開港を経てヨコハマが育んできた真の多様性と、
住みやすい環境を自分たちで創りだす市民のチカラ。
ここにしかない自由で開放的な風が吹き抜ける。
そんなヨコハマを、みんなで創りあげよう。

—未来の横浜を表すステートメント・スローガン・ロゴマーク—

開港150周年という記念すべき年に、市民同士が横浜の未来を語り合い、横浜の未来像を描く活動（イマジン・ヨコハマ）が行われました。市民の想いを基に、「横浜の未来像」を表したステートメントと、未来像を短い言葉や図柄で表すスローガンとロゴマークを作成しました。スローガン（OPEN YOKOHAMA）は、開放的で自由な横浜らしさを表し、ロゴマークは、横浜に吹く自由で開放的な風をイメージし、風車の羽をモチーフにYokohamaの「Y」を表したものです。